

さい帯血バンク NOW

第47号

2009年5月15日発行
日本さい帯血バンクネットワーク
発行者：中林正雄（会長）
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

3年ぶりに開催「合同公開フォーラム」

4月26日に、骨髄バンクとさい帯血バンクの「第4回合同公開フォーラム」が、日本赤十字社本社2階の大会議室で開催されました。このフォーラムは、骨髄バンクの事業主体である骨髄移植推進財団と、日本さい帯血バンクネットワーク、さらに全国骨髄バンク推進連絡協議会の三者が主催によるものですが、前回の開催から3年ぶりのもので、熱い論議が朝から夕方まで繰り広げられました。

●基調報告

今回の公開フォーラムは、昨年12月にさい帯血バンクを介したさい帯血移植が5000例となり、同時に骨髄バンクを介した骨髄移植が1万例を突破したのを機会に、今後の両バンクの方向性

を話し合うことを目的に「これからの日本の造血細胞移植——真の患者救命のために」というテーマで話し合いが行われました。

まず午前中は、骨髄移植推進財団が「将来展望に関する検討会議」の答申

に基づいての提言が行われ、それぞれが描いた両バンクの将来の姿を発表しました。また、これから導入されることになる非血縁間の末梢血幹細胞移植についての研究報告も行われました。



書と現状報告、また、さい帯血バンクネットワークからは「さい帯血バンク事業次世代デザイン会議」の報告書をふまえて「将来構想検討会」の経過も含めた現状報告と将来予測を、そしてボランティア団体の全国骨髄バンク推進連絡協議会からは「造血細胞移植将来像検討会議」の報告書

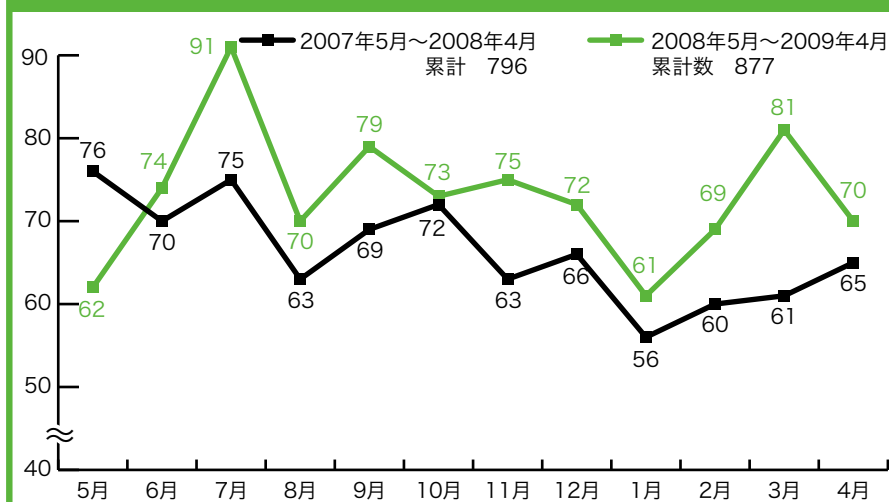
●パネルディスカッション

午後からのパネルディスカッションでは、及川耗造氏（公的骨髄バンクを支援する東京の会）と須藤晃氏（毎日新聞）が座長となり、パネリストにはネットワークの将来構想検討会から神前昌敏委員長、骨髄移植推進財団は加藤俊一常任理事、全国協議会は陽田秀夫副会長、移植医として虎の門病院の谷口修一氏、さらに非血縁者間末梢血幹細胞移植の厚労省研究班を代表して日野雅之氏が顔をそろえました。先の報告に基づいての両バンクの抱えるそれぞれの課題、これから導入される非血縁の末梢血幹細胞移植のあり方、さらに今後の両バンクの組織体制について、新しい姿をどう描くのが話し合われました。

このパネルディスカッションはパネリストだけでなく、会場からの発言もある全体討論会で、120名を超える参加者がフロアから活発な意見が出され、今後の方向性についての論戦で、丸一日の予定はあっという間に時間が過ぎたように感じられました。

非血縁間さい帯血移植状況 (2009年4月30日現在の速報値)

移植数 (累計) **5347** 公開数 **31595**





さい帯血バンク 10周年記念事業のご案内

記念式典の参加には事前申込が必要です

さい帯血バンクネットワークは、全国で事業展開している11のさい帯血バンクが情報を共有し、連絡調整を行う公的さい帯血バンク事業の中心的な役割を担っています。この事業は国の補助と指導を受けて1999年に設立され、今年の8月で設立10周年を迎えます。

そこでより皆様のご理解とご支援を頂けるよう、また今後のさらなる発展を目的として、フランスよりグルックマン氏、アメリカよりワグナー氏とブロックスマイヤー氏を招いての国際シンポジウム（同時通訳つき）など、次のように記念大会を開催します。

※参加費はすべて無料です。記念式典は事前に参加申し込みが必要となります。一般参加の募集定員は120名です。申込書はホームページ（<http://www.j-cord.gr.jp/>）からダウンロードしていただき、メール（info@macc.jp）またはFAX（03-5275-1192）でお送りください。5月15日より受け付けます。締切はメール申込が7月15日、FAXが6月30日です。締切日の前でも、定員になり次第、受付を終了することがあります。申し込みを受け付けた方には、参加証をお送りします。そのほかの行事は申し込みは不要です。また、内容は変更することがあります。ホームページからご確認ください。

日時：8月29日（土）

- 13:00～15:00 さい帯血バンクシンポジウム「もっとクロスしよう」
- 16:00～17:30 日本さい帯血バンクネットワーク設立10周年記念式典（※）
- 13:00～17:00 さい帯血関連展示

8月30日（日）

- 10:00～12:00 市民公開シンポジウム「さい帯血バンク10年目の課題」
- 13:00～16:00 国際シンポジウム"Global and New Insights into CBSCT"
- 10:00～15:00 さい帯血関連展示

会場：早稲田大学国際会議場・井深大記念ホール

今年も毎日新聞社から寄付贈呈

毎日新聞が行っている「小児がん制圧キャンペーン」の寄付金贈呈式が桜の咲き始めた3月31日、皇居に隣接した毎日新聞東京本社で行われました。日本さい帯血バンクネットワークは、毎年このご寄付をいただいておりますが、今年も中林正雄会長が出席し

て、朝比奈豊毎日新聞社長（毎日新聞社会事業団理事長）から手渡されました。今回は全国で26の団体に贈呈されましたが、これまでの寄付の総額は累計で2億1000万円に上るといふことでした。



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

NIPRO

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

 **NIPRO**
ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



連載

私とさい帯血移植「医師として患者として」

第7回◎ 無菌室の日々、そして生着

田結庄 彩知

新しい命を迎えた移植の日から高熱は下がり、抗がん剤の副作用である下痢や吐き気に悩まされながらも、移植前の絶望的な状況から比べると、心も体も楽になった。いただいたさい帯血が生着し、白血球が増えるまでは、約3週間と言われてはいるが、人によって差があって、それは誰にも分からない。その日を待ち続ける毎日は、一所懸命に勉強して試験を受けた後、合格発表までの間にソワソワする気持ちに少し似ていて、とてもじれったくて、待ち遠しかった。

■刑務所の独房

無菌病棟は、一枚の扉で一般病棟と仕切られ、限られた者以外は中に入ることは許されない。面会に来た母を見送るのはいつもこの扉の前で、ガチャンとノブが回る音で母は外の世界へ戻り、ガラス越しに手を振って、私は無菌病棟の廊下をひき返す。振り返れば「私も帰る」と言ってしまうようで、部屋までの数メートルをずいぶん長く感じた。一日を過ごす無菌室の個室には、大きな空気清浄機がついたベッド、テレビや冷蔵庫、洗面台が備えつけられていてトイレもある。ただ、そこには仕切りもなく、ベッドに寝ていても、食事をしていても、常に便器が目に入り、昔テレビで見た刑務所の独房にいるようで情けなかった。

ある朝起きると、首元がチクチクとする。丸刈りにして1センチほど残った髪の毛が抜けてきたのだ。頭を触っただけでパラパラとベッドに落ちる髪の毛を、掃除用の粘着テープを使って取っても取ってもキリがない。面倒になって頭に直接テープを当てて転がすと、白いテープが真っ黒に見えるほど一気に毛が抜けた。丸い頭をコロコロするのは以外に難しく、鏡を見ながら奮闘している自分の姿がおかしくて、声を上げて笑ってしまった。泣いても

笑っても同じ一日が過ぎるのなら、この無菌室での生活をできるだけ楽しんでみようか、ふとそう思った。

確かに、ここは日常とはかけ離れた空間だが、見方を変えれば温度も湿度も調整された三食昼寝付きの優雅な環境で、私はただ生きてさえいればいい。開き直ったような気持ちになり、自分のおかれている立場や現実を正直に受け止められるようになった。一日でも早くここから出たいと、焦る気持ちも少しずつ無くなって、どんな結果になるろうとも、移植を受けることができ、今日の、今のこの瞬間に命があることが幸せに思えた。

■同級生とポチ

ある日、大学時代の同級生が会いに来てくれて、無菌室のガラス越しにインターホンで話をした。挨拶もしないうちに彼の目には涙が溢れて、言葉が交わさなくなった。げっそりと痩せ、髪の毛も抜けた私を見てショックだったのだろう。せっかく来てくれたのに、何だか申し訳なくて、彼に笑ってもらうために、立ったまま一方的にしゃべり続けた。声を詰まらせながら「思ったより元気そうだ」と言ってくれた時は、ホッとして近くの椅子に座り込んだ。

24時間の点滴が必要な私が、どこに行くにも連れて歩く点滴台を「ポチ」呼び、体力が落ちないようにと病棟の廊下を歩くときは「ポチとお散歩」と冗談を言った。突き上げるような吐き気で目が覚めて、トイレで胃液まで吐く。ベッドから一步のところにあるむき出しのトイレも「便利なものだ」と納得もした。抗がん剤の影響で、味覚

がマヒして、水を飲んでも砂糖が入っているように甘く感じ、好物のカレーライスは何いはずるが、食べてみればお汁粉のようでがっかりした。それなら最初から甘い物を食べればいい、アイスクリームをほおぼり「甘さが2倍かも」なんて、ふざけることもあった。

■4年後の私

なんとかなるさ、楽しくやろう、昼間はそう思えても、面会時間が終わり消灯時間も過ぎて、一人で過ごす夜の闇は、深くて吸い込まれてしまいそうで「明日の朝も目が覚めますように」と祈りながら眠った。夜中になっても眠れずにテレビを見ていると、アテネオリンピックの中継が放送されていて「4年後の北京で」と負けてしまった選手を励ますアナウンサーの言葉に「私に4年後は多分無いな」と弱気になることもあった。それでも、朝になり太陽が昇ると、命があることに感謝しながら、カレンダーの今日の日付にバツ印をつける。こうして一日一日を積み重ねていけば、いつかはきっとここから出ることができる、そう自分に言い聞かせる日々が続き、少しずつ、そして予想していたよりもはるかに順調に、白血球が増え始めた。

毎日の採血結果に心が躍った。そして新しい命は無事に生着し、移植後18日目、ついに無菌室を出ることができた。主治医は泣きながら私のことを抱きしめて「よく頑張ったね」と言ってくれた。長い長いこの戦いを逃げきったのだ。私を絶望の淵から救い、もう一度生きるチャンスをくれた強くたくましいこの命に、心から感謝した。

筆者プロフィール

たいのしょうさち◎1977年神戸市生まれ。2002年、香川大学医学部卒業後、国家公務員共済組合虎の門病院内科にて研修。2004年、重症再生不良性貧血と診断。ATG療法施行も効果なく8月にさい帯血ミニ移植を受ける。2005年、虎の門病院を退職し東京医科大学大学院に進学。2007年6月、晩期生着不全で再入院。7月、2度目のさい帯血ミニ移植を受け、8月に退院し今に至る。



移植病院 訪問

① 虎の門病院（東京）

食べて病気と闘う

——血液科と栄養部

今号から新シリーズ「移植病院訪問」を連載することになりました。現在、日本さい帯血バンクネットワークに登録して、さい帯血移植を行っている病院は192施設ありますが、最初に訪問したのは国家公務員共済組合連合会・虎の門病院です。

世界一のさい帯血移植症例数

虎の門病院では、昨年は骨髄や末梢血幹細胞なども含めて年間130例の造血幹細胞移植を実施しています。そのうち70例はさい帯血移植で、この症例数は日本だけでなく世界で最も多数例のさい帯血移植を行う病院です。さい帯血移植を行っているのは血液科ですが、移植を実施するには院内の多くの部署の協力と連携が重要です。今回は移植患者さんたちに食事を提供する栄養部を訪ねました。血液科担当の管理栄養士・山野寿美子さんと加藤悦子さんからお話をうかがうことができました。

今日はパン、それともご飯？

「移植と食事」というと、何重にもホイルでくるんで長時間オープンにかけ



栄養士の山野寿美子さん（左）と加藤悦子さん

た「無菌食」を連想します。無菌室の患者さんの体内も無菌化しようという意図ですが、これまでの経験からその必要はないことがわかって移植のガイドラインが改定され、数年前からは「加熱食」を提供するようになりました。生ものはなく、すべて加熱調理されたもので、他の入院患者さんとメニューは変わりありませんが、調理途中での温度確認や衛生管理には特に気を使い、さらに配膳中の落下細菌の混入を防ぐため、すべての食器に蓋をするなどの感染対策は厳重です。また、ご飯食、パン食、全粥食の3種類を患者さんの好みで選べるようになっています。

特別メニューと個別対応も

虎の門病院栄養部では朝昼夕に700名の入院患者に食事を提供しますが、疾患と病状によりメニューは150種類にもなるといいます。血液科だけで加熱食は多い日には20食になることもありますが、化学療法や放射線照射の副作用で味覚障害や食欲がない患者さんには特別メニューの個別対応もしています。また、口内炎や固形物を飲み込めない嚥下障害のある患者さんには、味付けや調理法を変えるなどの配慮をしています。

イメージ新 病院食は美味しい

さらに、曆にあわせてのお楽しみメニュー、5月の節句には柏餅とちらし寿司、七夕にはそうめん、もちろんクリスマスやお正月、また季節ごとに提供されるお楽しみ献立には「春爛漫弁当」など、病気と闘う患者さんのため、栄養士さんの心遣いがあふれています。



ある日のご飯食、ポークカレー、小松菜醤油和、リンゴ（缶）、配膳時はすべてに蓋

ところで、山野さんは病棟回診にも同行して患者さんたちの容態をいつも気にかけているそうです。ちなみに筆者も加熱食を試食させてもらいました。お世辞ぬきにおいしかった——健常者にはお代わりがほしい——まずい病院食、というイメージは昔のものになったようです。

■善意のお気持ちに感謝します■

京都府	京都北ロータリークラブ	300,000円
京都府	ドリーム・トイ 様	200,000円
鹿児島県	岩元 博昭 様	100,000円
東京都	江藤 栄 様	10,000円
神奈川県	川西 澄江 様	10,000円
埼玉県	大寺 信行 様	6,000円
愛知県	塩見 美帆 様	3,000円
岩手県	遠藤 律枝 様	1,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

金融機関名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

支店番号：019

預金種目：当座

口座番号：0057390

口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク